

入賞

未来の水のために 私にできること

浜松市立東小学校

五年 ^{あがた} 縣 さん

私は、二年生の時からずっと、この「水の週間記念作文コンクール」におうぼしている。ふだん、水について考える機会はほとんど無いが、このコンクールとゴールデンウィークのおかげで水の大切さについて毎年考えることができています。

私が初めて書いた作文は、「水と平和」というタイトルだった。戦時下の長崎の少女が水を求めて死んでいったことにショックを受け、水は大切にしなければいけないと思ったことを書いた。

三年生の時は、「水と生きる」というタイトルで、水のじゅんかんについて思ったこと、感じたことを書いた。山に降った雨が湧き出て川となり、海へとそそぎ、また雲になって雨を降らせる。それが水じゅんかん。私たちがふだん使う水道や下水道も水じゅんかんの一部だ。自分勝手にむだ遣いしたり、汚したりしてはいけない。ふだんから節水にとりくみ、海や川のごみ拾いに積極的に参加しよう

と書いた。

四年生の時は、「もったいない」というタイトルで、水のむだ遣いについて考えた。きっかけは、ある日、小学校で水道の出しっぱなしを発見したことだ。じゃ口をしっかり閉めない、水がちよろちよろとずっと出ている。とてももったいない。その日から、毎日のように、じゃ口がちちゃんと閉まっているか校内をパトロールした。先生たちの声掛けもあり、今では水の出しっぱなしはほとんど無くなった。学校で実際に節水に取り組んで感じたことについて書いた。

過去の作文をふり返ると、なんとなく水を大切にしようという思いから、実際に行動して水を大切にしようという思いに変わってきたことが分かった。これは、毎年、同じ時期に水のことを考えた成果だ。未来の水のために私にできることを毎年増やしていこう。まず、今まで通り、ふだんの生活で節水に気を付け、川や海のごみ拾い活動に参加する。そ

して、今年からはリサイクル活動に参加し家庭のごみをへらすと取り組みを始めよう。最近話題の異常気象は二酸化炭素の増加が原因だ。家庭のごみをへらすことで、二酸化炭素の量をへらすことができる。また、リサイクル活動の収入でフェアトレード商品を買うと取り組みを始めたい。フェアトレード商品を買うことは、水に困っている人たちの地域に井戸の建設や水洗トイレの設置を可能にする。水に困っている世界中の人たちを救うことができるのだ。このアイデアは浜松市のコンテストで発表し、実現に向けてとりにくみ中だ。

私は、この作文コンクールに参加して、本当に良かったと思う。毎年、少しずつ自分が成長しているのを感じる。これからも毎年この時期に水のことについて考えるようにしたい。